

# 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	217	67	62	2.0	6.6
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	249	73.6	53.4	58.3	58.4	62.2	3.3	3.7	10.9	2.5	3.5
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	244	72.4	61.3	56.4	52.9	67.4	5.3	3.2	6.6	4.3	4.3
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	250	64.8	65.4	60.9	59.8	75.4	7.3	2.9	4.2	3.3	2.6
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	248	122.7	129.6	188.8	123.4
10月17日	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	194	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	27.49	26.53	42.02	52.58	83.34	400.00	7.99	198.03	18.44	40.97
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	422.62	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	410.69	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	21.75	19.74	44.26	45.58	51.49	—	9.03	169.08	10.77	45.05
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	337.57	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.74	46.47	45.65	50.67	309.02	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は67%と、大阪府と比較して+10ポイント、全国と比較して+8.9ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に正答率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、6.5ポイント、「読むこと」については10.0ポイント、「書くこと」については9.0ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、12.1ポイント、「我が国の言語文化に関する項目」では10.5ポイント、「情報の扱い方に関する項目」では、7.5ポイント上回る結果となった。

さらに評価の観点別では「知識・技能」で10.4ポイント、「思考・判断・表現」で8.6ポイント全国平均と比較して上回ることができた。

全ての項目で全国平均を大きく上回っており、1、2年生の系統立てた学習計画の成果が出ていると考えられる。問題番号(四)の、話し合いの話題や発言を踏まえて自分の考えを書くという記述式の問題についても、全国平均と比較して3.0ポイント正答率が上回っていた。さらに無解答率も4.2%(全国9.9%)であり、粘り強く自分の考えを書くという姿勢も身についてきたと考えられる。

今後の課題としては、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために論理的に構成を考えて書くことである。また、複雑な文章を読むことに抵抗がある生徒や外国籍の生徒もいるため、基本的な文章の要旨を押さえることもあわせて必要である。

〈数学〉

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は62%で、大阪府平均を11ポイント、全国平均を9.5ポイント上回った。

本校の領域別の平均正答率は、「数と式」の領域では、63.7%(府平均:+13.3、全国平均:+12.6)、「図形」の領域では、52.8%(府平均:+12.3、全国平均:+12.5)、「関数」の領域では、66.2%(府平均:+7.3、全国平均:+5.5)、「データの活用」の領域では、61.3%(府平均:+8.0、全国平均:+5.8)であり、すべての領域で、府平均・全国平均ともに上回った。

観点別、問題形式についても、すべてで府平均・全国平均ともに上回った。

生徒質問紙では、「数学の勉強は大切だと思いますか」の項目において、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合が61.3%で、全国平均を8.5ポイント上回った。

本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、図形の領域の正答率が50%を少し上回っている程度であること、記述式の問題の正答率が辛うじて40%を上回っている程度であることが課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

〈国語〉

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は73.6点と、大阪府平均の65.2点を8.4点上回った。

学習指導領域別に得点率についても、すべての領域で大阪府平均を上回ることができた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、2.0ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、1.0ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.9ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については1.5ポイント、「書くこと」については1.6ポイント、「読むこと」については、2.7ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別平均点では、「知識・技能」については40.9%となり、大阪府平均の35.9%を5.0ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では48.0%となり、大阪府平均の42.1%を5.9ポイント上回った。

無解答率についても、4.9%で大阪府平均の5.3%を下回った。自分の意見を書くワークシートを單元ごとに取り入れ、書くテーマを明確にして書き方の型をおさえて書くトレーニングを続けてきた結果、粘り強く書く姿勢が身についてきたと考えている。

すべての設問で大阪府平均の正答率を上回ることができたが、「聞き手を意識し、自分の考えが明確に伝わるように話の構成を整理して考えることができる」という出題趣旨の問題に対しては36.7%の正答率であった。自分の考えを論理的に説明することが課題の生徒が多いことがわかる。また選択式の問題において解答できていない生徒もいることが課題である。

〈社会〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均50.4点よりも3.0点高い、53.4点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均29.5点よりも1.8点高い、31.3点であり、歴史的分野が大阪府の平均21.0点よりも1.1点高い、22.1点であった。また、得点の人数の分布をみると、大阪府全体のピークが40～44点に対し、同じ40～44点の範囲に9.9%、60～64点に9.9%が分布し、府と同等の力と、それ以上に分布する2段階の形が見られた。大阪府全体と比べ低い得点の分布が少なく、高得点の分布が高いことがわかる。

観点別に見た得点率では、2観点とも大阪府の平均を上回った。

問題形式別の得点率でも、選択式、短答式、記述式のすべてにおいて大阪府平均点よりも高い結果となったが、記述式においては府平均よりも0.2点上回ったのみなので、記述式の問題に取り組む機会を今後増やしていく必要がある。

〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は58.3点で9.2点上回った。

「数と式」の領域では、得点率が74.0%(府平均+10.3)となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。その他の領域については「図形」の領域で56.3%(府平均+9.8)、「関数」の領域で50.6%(府平均+7.7)、「データの活用」の領域で48.2%(府平均+8.7)と全領域において上回る結果となった。

〈理科〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均52.3点よりも6.1点高い、58.4点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では55～59点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では70～74点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。85～89点も人数分布が大阪府の平均より多く、学校の平均点を引き上げる原因になっている。度数分布が1つ山になっているため、昨年度までに見られた二極化も今年度は解消されたと考える。

領域別に見た平均点では、4領域とも大阪府の平均点を上回っていたが、「エネルギー」の領域の平均点が他の領域に比べ20点ほどの差がみられた。観点別に見た平均点でも、全ての観点で大阪府の平均点を上回っていた。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、短答式や記述式よりも選択式の得点率が高くなった。一方で、問題別に詳しく見ていくと、ほとんどの問題で正答率が大阪府の平均を上回っているが、ガスバーナーの扱い方や体表のようすについて問われている設問が大阪府平均よりもやや低かった。

〈英語〉

本年度のチャレンジテストにおいて、英語の平均点は、大阪府が53.6点であるのに対し、本校は62.2点であり、大阪府平均を8.6点上回る結果となった。

分類・区分別に得点率(平均点/配点)を見ると、以下の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「聞くこと」の区分で2.7ポイント、「読むこと」の区分で2.8ポイント、「書くこと」の区分では3.0ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分で4.4ポイント、「思考・判断・表現」で4.1ポイント上回っている。

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分で6.3ポイント、「記述式」の区分では2.4ポイント上回っている。

以上のように、すべての区分において大阪府平均を上回った。

「聞くこと」の区分で大阪府平均を上回ったのは、日頃の授業でC-NETの流暢な英語を聞いたり、単元ごとに授業でリスニング問題を行っていること、また、各単元の確認テストや、定期テスト、実力テストにおいても、毎回リスニング問題でその力を試す機会を設けていることが要因であると考えられる。

「読むこと」については各単元で取り上げる基礎的な構文への理解と、3年生になってから英語演習の授業で取り組んだ1,2年生の範囲の文法事項の復習、初見の長文にたくさん取り組む機会が増えたことが、一定の効果をあげたためであると思われる。

また、「書くこと」の区分では、授業の中で和文英訳や自由英作文を組み込み、練習問題や確認テストで頻繁に英文を書くことにより、英語に苦手意識を持つ生徒も前向きに書こうとする姿勢が増えてきたためであると考えられる。

#### ○大阪市英語力調査 (GTEC) より

本年度の大阪市英語力調査 (GTEC) において、東中学校の平均スコア合計は565.2点であった。大阪市の平均スコア合計は464.8点であり、100.4ポイント上回る結果となった。

4技能についてそれぞれのスコアを見ると、以下の通りである。

「読むこと(リーディング)」の区分で17.0ポイント、「聞くこと(リスニング)」の区分で25.0ポイント、「書くこと(ライティング)」の区分では39.2ポイント、「話すこと(スピーキング)」の区分で21.3ポイントと、すべての区分において大阪市平均を上回った。

「読むこと(リーディング)」の区分においては、音読の際に内容理解の質問を行うことや、指示語の確認をすることで、内容把握の力を伸ばしていることが得点につながっていると考えられる。しかし、長い文章や、表やグラフの読み取りなど、情報量が多くなるにつれて苦手意識が現れ、間違いが多くなることもわかった。

「聞くこと(リスニング)」の区分では、定期テストや実力テストでのリスニング問題でその力を試す機会を設けていることが得点の要因であると考えられる。加えて、日頃の授業では、パートの本文ごとにディクテーションでの質問を作成し、聞き取った英語を文章にする取り組みもおこなっている。それも要因の一つであると考えられる。

「書くこと(ライティング)」の区分においては、大阪市平均を大きく上回る結果となった。教科書本文の書き練習以外にも、週に1度の演習の時間に自由英作文としてスピーチ原稿の作成を行い、英文を書くことに慣れさせたことが、英作文が苦手だと感じている生徒の書くことへの意識向上につながった。

「話すこと(スピーキング)」の区分においては、授業中のペアやグループでの会話活動はもちろん、定期的なスピーチの発表を取り入れたことが好結果の一因であると考えられる。

#### ○中学生チャレンジテスト (2年生)

##### 〈国語〉

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は72.4点と、大阪府平均の65.5点を6.9ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、6つある領域のうち、6項目が大阪府平均を上回ることができた。それぞれの項目の得点の平均を比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.3ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、0.4ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.6ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については1.6ポイント、「書くこと」については1.0ポイント、「読むこと」については2.6ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については40.2点となり、大阪府平均の37.0点を3.2ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では46.3点となり、大阪府平均の41.0点を5.3ポイント上回った。特に、3問出題された漢字を書く問題では、正答率がそれぞれ12.5ポイント、16.3ポイント、5.4ポイント上回った。国語の授業の最初の5分などを活用し、定期的な小テストでの振り返りや重要な漢字を中心に定着を図る練習を行ってきたことが、今回の結果に結びついたと考えられる。

昨年度は書写に関する問題で大阪府平均を下回っていたが、書写の時間の充実や指導などに力を入れた結果、今年度は「行書で筆順が変化している字を選択する」問題で2.2ポイント上回った。

##### 〈社会〉

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均49.5点よりも11.8点高い、61.3点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均50.0点よりも10.7点高い、60.7点であり、歴史的分野が大阪府の平均49.0点よりも13.0点高い、62.0点であった。

今後の課題としては、地理的分野の「都道府県や都道府県庁所在地」の位置や名称についての理解が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が11.3点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、記述の形式の得点が大阪府の平均42.8点よりも8.7点高い、51.5点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしている成果が出ている。

##### 〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は56.4点で5.7点上回っていた。

各領域別の得点率を見ると、「数と式」の領域は67.5% (府平均+9.3ポイント)、「図形」の領域は51.8% (府平均+1.8ポイント)、「関数」の領域は48.7% (府平均+5.4ポイント) であり、全領域で上回っているものの、府平均比だと図形の領域の得点率が低かった。

##### 〈理科〉

本年度のチャレンジテストにおいて、理科の学校平均正答率は52.9で、大阪府平均正答率の47.2を5.7上回った。カテゴリー間の比較においても、すべての項目で大阪府を上回った。

正答率の度数分布においては、分布の傾向は大阪府が30~34が一番多いが、最も高い分布が65~69であった。しかし、50~59に分布している生徒が周辺の正答人数より少ない凹型の分布になり、少しの2極化が見られた。上位層は大阪府を少し上回る傾向にあった。

課題については、問題形式が記述式の問題すべての無解答率が20%を超えていることである。授業の中でも記述になれるために、多くの問題を取り入れてきたが、無解答率は停滞している。

##### 〈英語〉

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が54.0点であったのに対し、本校は67.4点であり、大阪府平均より13.4ポイント上回る結果となった。

学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、3.0ポイント上回ることであった。C-NETとの授業やリスニングテストの実施だけでなく、小テストでのリスニングや、ディクテーションを実施することで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、3.4ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れ、そのWPM (1分間に何語ほど読めるかの指標) を計測する指導をしていることで、ある程度の文章を読み取る力がついてきているという結果となった。

「書くこと」の領域においては、7.0ポイント上回った。単元ごとの確認テストをはじめ定期テストでも自由度の高い英作文に取り組んでいることや、C-NETを含む

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

複数教員で添削することで基本的な「書く力」が定着しつつあると考えられる。

また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において7.9ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において5.5ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

○中学生チャレンジテスト(1年生)

〈国語〉

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は64.8点と、大阪府平均の58.5点を6.3ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、6つある領域のうち、6項目が大阪府平均を上回ることができた。それぞれの項目の得点の平均を比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、0.7ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、1.0ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.8ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については1.7ポイント、「書くこと」については0.8ポイント、「読むこと」については2.4ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については36.4点となり、大阪府平均の32.9点を3.5ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では46.1点となり、大阪府平均の41.0点を5.1ポイント上回った。特に、「我が国の言語文化に関する事項」の問題では、現代仮名遣いに直す問題の正答率が17.6ポイント、場面展開や内容理解に関する問題が11.6ポイント、主語を理解する問題が8.8ポイント上回った。定期的な小テストでの振り返りや古典に親しめるよう音読活動を行ってきたことが、今回の結果に結びついたと考えられる。

「文章中での言葉の働きを理解している」という項目の正答率を比較すると、3.1ポイント下回っており、文のきまりについての知識の定着などに課題があると考えられる。また6問出題された漢字の問題では、うち3問が大阪府平均をわずかに下回っており、漢字の知識の定着にも課題がみられる。

〈社会〉

本年度のチャレンジテストプラスにおいて、本校の社会の平均正答率は65.4%と大阪市の53.7%を11.7ポイント上回った。

学習指導要領別の得点率についても、すべての要領で大阪市の平均を上回ることができた。領域別正答率では「地理」では、本校の平均正答率は67.1%と大阪市の55.4%を11.7ポイント上回った。また、「歴史」では、本校の平均正答率は63.4%と大阪市の51.7%を11.7上回った。

評価の観点別では「知識・技能」については68.1%となり、大阪市平均の55.9%を12.2ポイント上回った。さらに、「思考・判断・表現」では59.9%となり、大阪市平均の49.3%を10.6ポイント上回った。

チャレンジテスト対策として12月に習熟度別学習を基礎と応用のクラスに振り分け、3回実施し基礎コースの生徒は「知識・技能」を中心とした問題に取り組み、応用コースの生徒は「思考・判断・表現」のを中心とした問題に取り組んできた結果、粘り強く問題を解く姿勢が身についてきたと考えている。

しかし、「東アジアの動きが日本の文化に与えた影響について、資料をもとに考察し、表現している」といった問題に対し、正答率が低かったのが課題である。(大阪市18.2%、本校35.0%)これは、資料の内容を読み取って自分の考えたことを書くことが難しいと見られる。

〈数学〉

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は60.9点で11.1点上回っていた。

領域別に見ると、「数と式」では、得点率が58.4%(府平均+9.8ポイント)となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考えられる。また、「関数」では得点率が62.4%(府平均+11.5ポイント)、「図形」では得点率が65.0%(府平均+13.7ポイント)で、すべての領域において府平均を上回った。

各問題ごとに得点率を見ても、すべての問題において府平均を上回っているが、正答率の低い問題は、府平均と同様に本校でも得点率が低く、特に記述式の問題では改善の必要があると考えられる。

〈理科〉

本年度のチャレンジplusテストにおいて、理科の学校平均正答率は59.8で、大阪市平均正答率の55.6を4.2上回った。カテゴリー間の比較においても、すべての項目で大阪市を上回った。

正答率の度数分布においては、分布の傾向はほぼ大阪市と同様で、中間層が少なく、できる、できないの2極化を示した。2極化のうち、下位層はほぼ大阪市と同じ割合であるが、上位層は大阪市を少し上回る傾向にある。その分、平均点周辺層の割合が、大阪市に比べてかなり低くなっている。また、正答率100の生徒が9名おり、大阪市の正答率の2倍以上になっている。

課題についての1つは、問題別正答率において、「気体の性質」のみが大阪市の正答率を下回ったことである。その原因は、学校の理科室の関係で、気体の実験を行ったのがチャレンジplusテストの実施以降であったことがあげられる。理科室の場所や実験器具の未整備などが原因で、十分な実験を行える環境にない。その改善が喫緊の課題である。

2つ目の課題は、下位層の引き上げである。これについては、かなり厳しい状況にある。日常的でない科学用語の意味を考えたり、覚えたりすることが困難な生徒がとて多い。また、基礎的な計算(分数計算など)ができない生徒がとて多い。これらの改善が大きな課題である。

〈英語〉

本年度のチャレンジテストにおいて、大阪府の平均が61.5点であったのに対し、本校は75.4点であり、大阪府平均より13.9ポイント大きく上回る結果となった。

「聞くこと」の領域においては、大阪府平均を3.8ポイント上回った。C-NETとの授業や定期テストにおけるリスニングテストだけでなく、普段の授業の中でリスニング問題に取り組ませることで聞き取りの力が定着し、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、6.7ポイント上回ることができた。内容理解の問題に取り組むことを授業に取り入れていることで、文章を読み取る力がついてきているという結果に結びついた。また、長文の内容をこまめに確認しながら授業を進めることで読む力の底上げにつながったと考えられる。

「書くこと」の領域においては、3.4ポイント上回ることができた。単元ごとに単語や連語、また空所補充問題を含めた単語テストを実施し、会話のやり取りなども文章にすることで書くための基本的な力はあると考えている。

また、評価の観点においては「知識・技能」の観点において6.9ポイント、「思考・判断・表現」の観点においては7.1ポイント大阪府平均を上回っており、どちらの能力もまんべんなく身につけていると考えられる。

しかし、無回答率は2.6%であった。大阪府の無回答率が5.8%であることを考えると少ない傾向ではあるが、間違えることを恐れて、自分が確実に理解している内容でなければ問題にチャレンジしない生徒もいるということが見て取れる。

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査より

〈国語〉

これまでペア活動やグループ活動を単元ごとに取り入れ、発表する機会も設けてきたので、さらに、よりよい文章や作品ができるように仲間の意見を取り入れる授業を工夫していきたい。学習端末を活用し、学び合いツールなどの工夫によって意見の共有が可能である。また、日本語指導が必要な生徒に対しても、習熟度別授業を活用し、個に応じた指導を行う。さらに、資料や図の読み取りなどが関わる複雑な文章を読むことに苦手意識を感じる生徒もいるため、ワークシートや授業での発問等を工夫していく。

〈数学〉

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。

生徒質問紙の、「数学の授業の内容はよくわかりますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と回答した生徒の割合が88.5%で、全国平均を12.8ポイント上回った。さらに全国平均を上回るよう、授業改善をしていく。

また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。生徒質問紙の、「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と回答した生徒の割合が82.5%で、全国平均を5.5ポイント上回った。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れ、今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。

今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)より

〈国語〉

受験や卒業後の進路に向けて、自分の考えを論理的に組み立てて分かりやすく文章にまとめることを行っていく。情報の読み取りや文章読解を通して、内容を分かりやすく整理し、まとめる活動を取り入れていきたい。そして、「主体的・協働的な学習」「課題解決的な学習」「グループワーク」等、様々な学習活動を展開し、生徒のさらなる能力の向上に努めていく。

〈社会〉

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、全体的な上乘せが必要である。授業内での復習や課題を取り組むことで基礎的学力をさらに向上させたい。

また、今後も授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させ、まとめたものを発表することを続けていきたい。

〈数学〉

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業内容を理解し、基礎的・基本的な内容が身につけていると考えられる。しかし、「関数」の領域の得点率が50%をわずかながら超えているにとどまり、「データの活用」の領域では得点率が50%を下回っているなど、全体としては府平均を上回っているとはいえ、更なる復習が必要である。

また、記述式の問題についても、府平均を10.3ポイント上回ったものの、本校の得点率は38.1%と低い結果であった。そのため、今後は数学を用いた事象を理解し、説明する力の育成に努めたい。また、言語活動を取り入れた授業展開の中で、思考力・判断力・表現力の育成に努め、入試に向けた様々な演習に生かしていきたい。

〈理科〉

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から単元ごとの白プリントや、授業での演習を実施してきた成果と考えられる。

問題形式別の平均点では、すべての項目で大阪府の平均を上回っているが、記述式の問題(化学変化における質量の変化)で「無解答」の生徒の割合が27.6%であった。この学年は、コロナウイルス感染拡大防止対策下において、実験・観察の機会をもつことが難しかった。特に、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会が少なかったこと原因であると考えられる。

今後、引き続き基礎・基本の定着を行いつつ、記述式の問題への対策をしていく必要があると考えられる。そのため、生徒の興味関心が高まるような動機付けと、日常生活との関連付け、実験の結果を予想したり検証したりできるような工夫を行い、自らの考えをまとめ、発表する機会を増やしていかなければならない。

得点が低い層は理科に対して苦手意識があるためより基礎・基本が定着するよう、教材を工夫し、実力テスト等を振り返る機会を設け、単元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく。生徒が自ら、成果を実感し課題を見つけることができるよう、授業を工夫していくことが重要であると考えられる。

〈英語〉

「聞くこと」の区分では、今後も、C-NETの流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えていく。

「読むこと」の区分では、教科書本文の各単元での読解問題に積極的に取り組み、さらにそれ以外の長文等も授業で用いて読解力を高める。また、読むだけではなくその内容について要約したり、発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組みさせる。また、スピーチを授業に組み込み、自分の書きたいことを具体的に考えて論理的に書く力を養うと共に長い英文を書いたり、自由英作文にも取り組んでいけるようにする。

また、すべての領域や区分において、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、学習支援を行っていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)より

「読むこと」の区分では、教科書本文以外の長文等も授業で用いて読解力を養う。また、読むだけではなく、そのことをまとめたり発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「聞くこと」の区分では、引き続き、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストを通して、リスニング力を鍛えていく。また、リスニング教材等を使用し、授業中における英語力向上を図る。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組みさせる。また、C-NETによる添削指導を行うことで、正確に書く力を養うと共に、長い文章や自由英作にも対応できるようにする。

## 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

「話すこと」の区分では、授業での英語のやり取りを増やし、ペアやグループでの活動を精選しながら、実際に英語を使う活動を実施していく。  
また、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し個に対する学習支援を引き続き行っていく。

### ○中学生チャレンジテスト(2年生)

#### 〈国語〉

すべての観点で大阪府平均を上回っているが、「書くこと」の自分の考えを書く設問の無回答率などを見ると、大阪府の割合よりは低いものの、一定数答えることができていない生徒がいる。自分の意見を書くことが困難である生徒に対し、チームティーチング授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな支援をしたりすることで、書く力の定着を図りたい。またワークシートや言語活動を取り入れた授業などを工夫し、わかったという実感をもたせる。書くことへの苦手意識を払拭し、自信につなげる。

今後も、小テストを行いながら基本的な学力である漢字や語彙に力を入れつつ、基本的な読み書き能力の定着に励み、文章の主旨や自分の意見を書いたりする時間を単元ごとに工夫して作っていく。さらに、資料やデータを用いた意見文を書く活動も積極的に取り入れて、様々な問題に粘り強く取り組む姿勢も定着させたい。

#### 〈社会〉

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、地理的分野の「都道府県や都道府県庁所在地」の位置や名称についての理解が低いことがデータとして出ているので、小テスト等を実施して改善を図る。

また、歴史的分野の授業においても、小テストなどを実施することで、知識の定着を図り、より生徒が興味・関心を持てるような授業づくりに努める。

#### 〈数学〉

「図形」の領域は、府平均は上回っているものの、平均得点率が51.8%であり、50%を上回る「数と式」、「関数」の領域に比べると低い。また、観点別に見ると「知識・技能」の観点で平均得点率が62.5%、「思考・判断・表現」の観点で、46.5%であった。解答別では、「選択式」で59.3%、「短答式」で56.6%であり、これらは50%を上回っているが、「記述式」では28.5%で府平均と比べても6.2%しか上回っていない。平均無回答率で比べると本校は6.6%であり、府の9.5%を上回っている。しかし「思考・判断・表現」の観点における問題の中には、無回答率は50%を上回る問題もあった。

以上の結果から、思考を必要とする問題には取り組まない傾向や、難しい問題に積極的に取り組んでいない可能性が相変わらず残っていると思われる。1年次より生徒たちが自ら問題を解く時間を長めに確保しながら、解答を導くために必要な質問をし、諦めずにできる箇所まで問題に取り組む姿勢を身につけさせられるように声掛けをしているが、引き続きアプローチを創意工夫しつつ、授業を展開していきたい。

#### 〈理科〉

今後も引き続き問題演習で記述形式の問題を取り込み、まずは「書く」ことを意識するように指導を続ける。また、化学分野で結びつく酸素の質量を求める問題と指定された語句を用いて説明することも無解答率は高くはないが、正答率は他の問題に比べると低いため、より実践的な問題を解く必要がある。

#### 〈英語〉

大阪府平均を本校は13.4ポイント上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために、授業内で基礎力をつけるために繰り返し学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストなど授業中に実施できるものだけでなく、条件英作文や入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。

特に自由度の高い記述問題では英文の完成度の個人差が大きくなる傾向があるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、まずは短い文での解答ができるように授業内での質問を増やし、少しずつ書くことへと移行することで苦手意識を減らしていくように指導の体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期テストでのリスニングだけにとどまらず、ディクテーションでの書き取りも行い、リエゾンを含んだ英文の音読も実施することで、英語の音声の特徴をとらえた聞き取りを進める。また、C-NETとの授業の中では、聞くだけではなく英語を使って会話をすることで、集中して聞き取るという意識を高めていく。

今年度は、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、苦手意識を持っている生徒も存在する。その生徒達にも英語に対して、興味関心を持ってもらえるような授業を展開していく。今後は自分たちで目標をもって学習を進め、ペア活動なども取り入れながら考えを深められる授業につなげられるよう、授業内容を工夫するとともに、少人数授業やチームティーチングでの授業を活用し、生徒の学力の向上につなげていきたい。

### ○中学生チャレンジテスト(1年生)

#### 〈国語〉

すべての観点で大阪府平均を上回っているが、「書くこと」の自分の考えを書く設問の無回答率などを見ると、大阪府の割合よりは低いものの、一定数答えることができていない生徒がいる。自分の意見を書くことが困難である生徒に対し、チームティーチング授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな支援をしたりすることで、書く力の定着を図りたい。

基本的な学力である漢字や語彙の定着を図るため、小テストを行っていく。また文章の主旨や自分の意見を書いたりする時間を単元ごとに工夫して作っていく。さらに、資料やデータを用いた意見文を書く活動も積極的に取り入れて、様々な問題に粘り強く取り組む姿勢も定着させたい。

#### 〈社会〉

大阪市平均を11.7ポイント上回る結果となったが、さらに実力を伸ばすために、今以上に集中して授業に臨み、基礎力・応用力をつけるために繰り返し学習ができるよう、今後の授業展開を考える必要がある。

とくに、資料を読み取り、自分の意見を書くことが困難である生徒が多いため、資料を活用したグループワーク学習を展開し、内容について生徒たちが自ら考え、答えを導き出せるよう支援をしたりすることで、学力の定着を図りたい。また引き続き、12月にチャレンジテスト対策として習熟度別を行い、基礎学力の定着に励み、様々な問題に粘り強く取り組む姿勢も定着させたい。

#### 〈数学〉

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけている。また無解答率も府平均を4.6ポイント下回っていることから、設問に対して積極的に考えることができていた。

ただ記述の問題については、大阪府平均を3.3ポイント上回っているに過ぎず、またアンケートにおいて、「難しいことがあっても、あきらめない」という設問に対して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が75.4%であり、府平均を1.4ポイント下回っていた。

チャレンジテストの結果とアンケートから判断できる課題について、思考力・判断力・表現力の育成に努めていくとともに、最後まで諦めずに粘り強く取り組む力を養っていきたい。

#### 〈理科〉

課題の1つである「気体の性質」については、チャレンジplusテスト終了後、実験を行い復習した。そのときの反応を見る限り、一定以上の層においては定着が図られたと思われる。このことを教訓に、理科室をより使いやすくするため、室内の抜本的な整備やさまざまな実験器具のリニューアルを早急に行わなければならない。

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

うが、その結果、理科の授業で、科学用語の理解が、生徒にとって、なかなか難しいと感じてくることがある。

もう一つの課題である下位層の引き上げについては、今まで同様、教材プリントの作成とスライド教材により、科学用語の意味をできるだけわかりやすく解説し、また、身近に感じられるような工夫をしていく予定である。ただし、これにはある意味での限界がある。小学校で学習する理科と中学校で学習する理科の間には、とても大きなギャップがある。科学用語にはすべて意味があるが、そのことを専門家ではない小学校教員が教えることはとても難しい。中学生になって、急にその意味を考えるように促されても、苦手な生徒にとっては、科学用語は初めて学習する外国語に等しいと思われる。そして、そのことは生徒に限った話ではない。多くの大人も同じように感じている。

「理科（自然科学）はとても難しい」

これを払拭するような授業を展開することが必要である。

〈英語〉

大阪府平均を13.9ポイント大きく上回るという結果となったが、さらに実力をつけていくために今後も集中して授業に臨み、様々な領域で基礎力を付けられるように、今後の授業展開を考える必要がある。

特に「聞くこと」の領域では、もう少し強化を図る必要があると思われる。授業中の単語や本文の聞き取り、音読や定期テストのリスニングに加えて、洋楽を授業に取り入れることで、楽しみながら英語の音になれる工夫も続けていきたい。また、C-NETと連携した授業を通して、日常的に英語を聞く環境を作り、聞く力をつけ、英語を使って会話をすることで「話す」という意識も高めていき、より実践的な英語力を身に付けられるようにする。

また「書くこと」の領域においては、単語テストや短い英作文に加えて、テーマを与えた自由英作文に挑戦するなどして、英語を書く機会を増やすようにしていく。また、英文作成に向けて、単語や熟語の定着から始め、自分の考えを英語で表現する基礎的な力をつけていく指導を行う。

また、様々なパターンの問題に取り組ませて、自信をもって取り組めるよう工夫した授業を行っていくことで無回答率をより低くすることが可能だと考えられる。

これまでの授業においては、意欲的に取り組む生徒も多数見受けられたが、苦手意識を持っている生徒も一定数は存在している。その生徒達も、興味を持って取り組めるように授業を工夫していく。さらに、グループワークを多く取り入れ、英語でのプレゼンテーションの機会を増やし、自分の考えを表現できる能力を身につけさせたい。

# 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

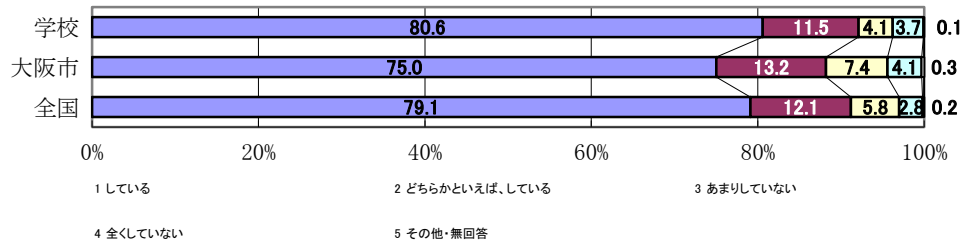
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

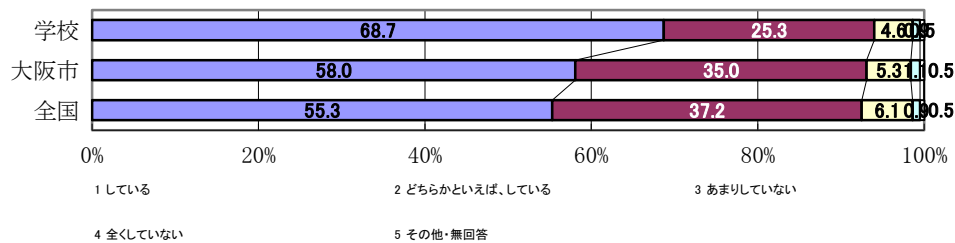
1

朝食を毎日食べていますか



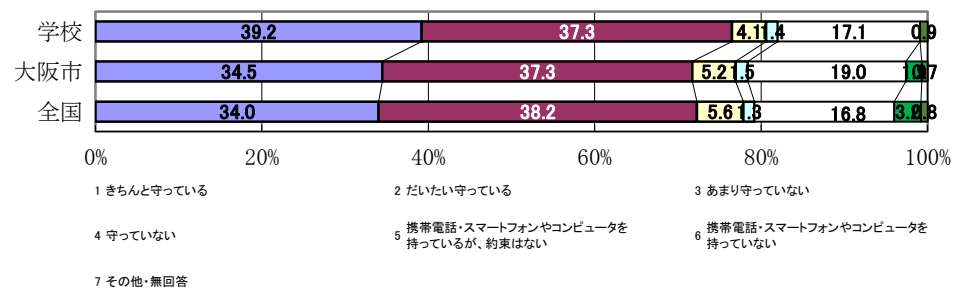
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



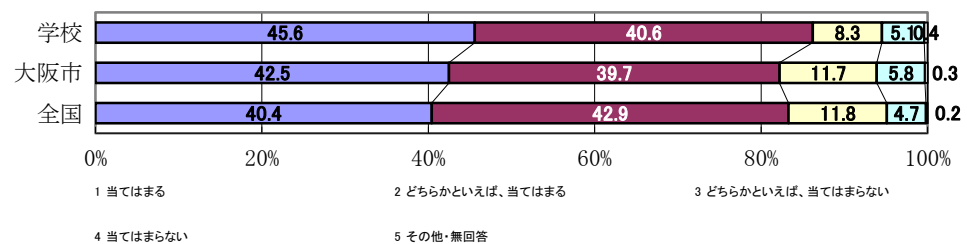
7

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、  
家の人と約束したことを守っていますか



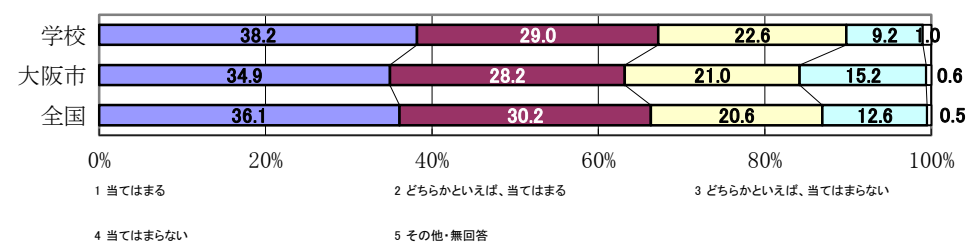
9

自分には、よいところがあると思いますか



11

将来の夢や目標を持っていますか



# 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

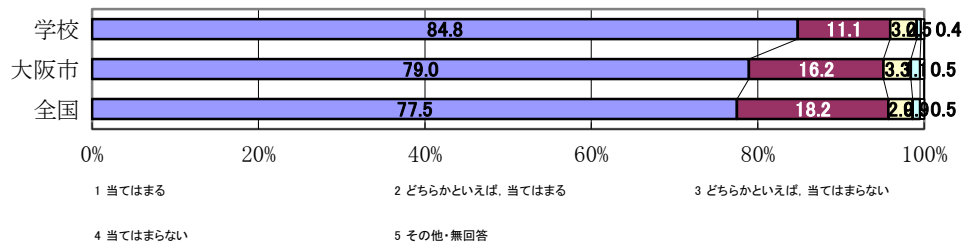
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

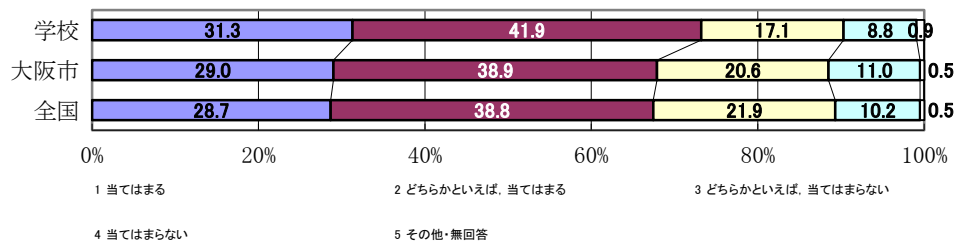
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



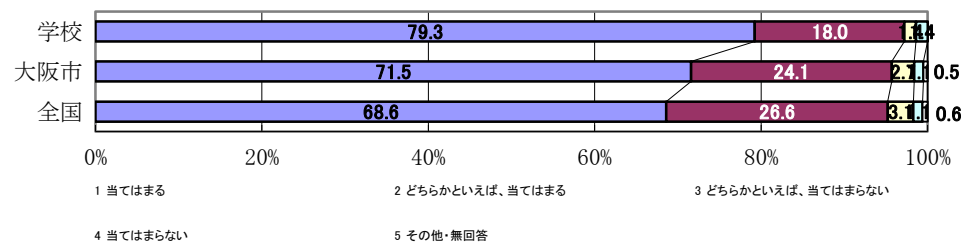
14

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



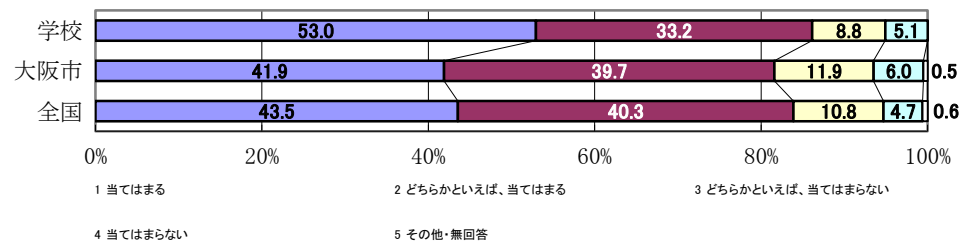
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



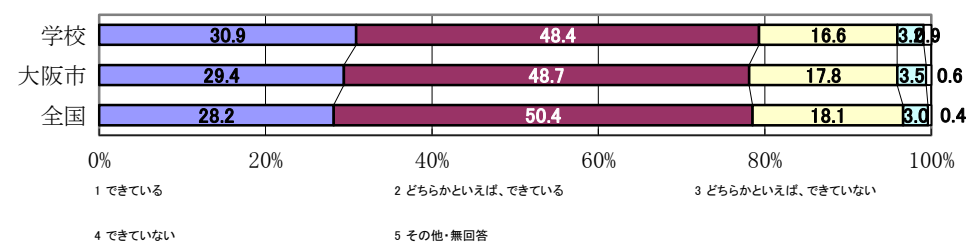
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



# 令和6年度 東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

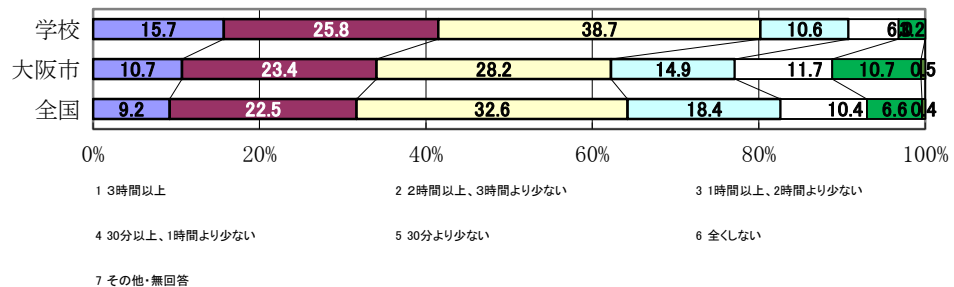
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

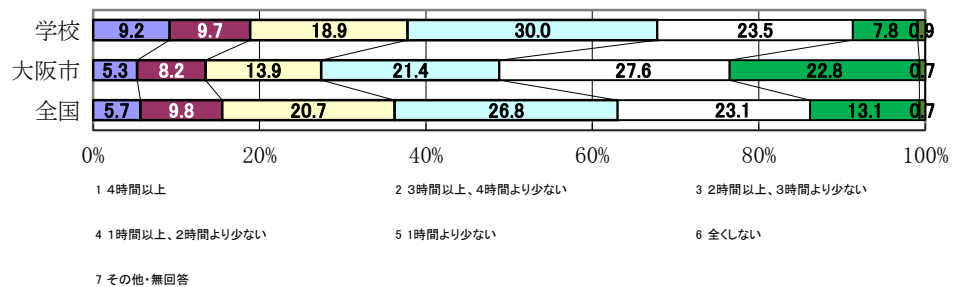
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



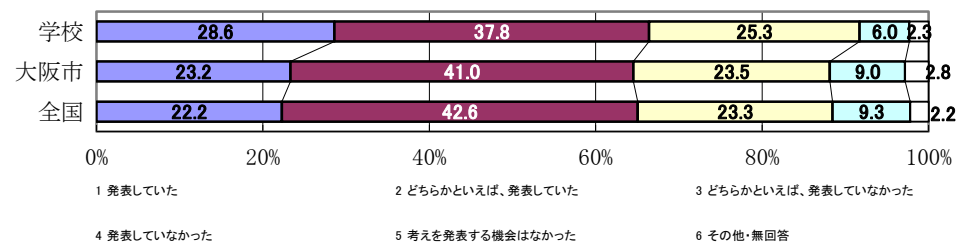
22

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



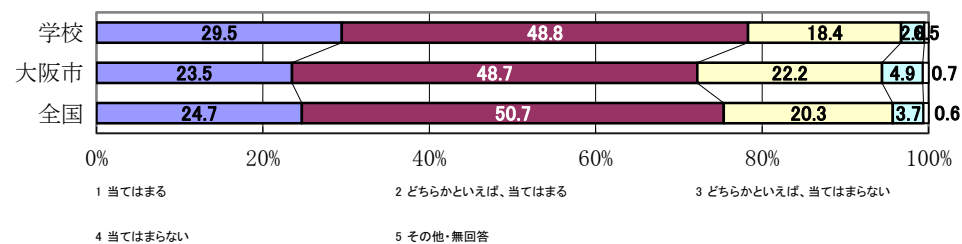
29

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



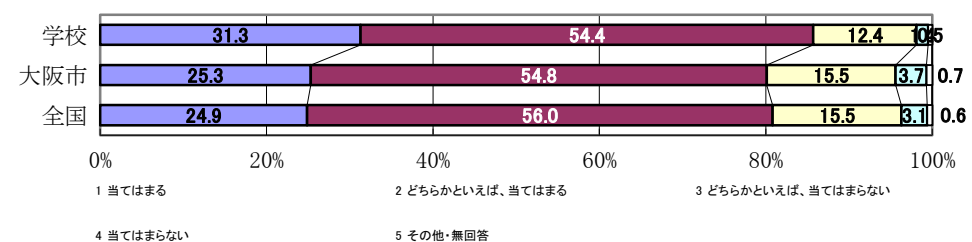
31

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



32

1、2年生のときに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか



令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

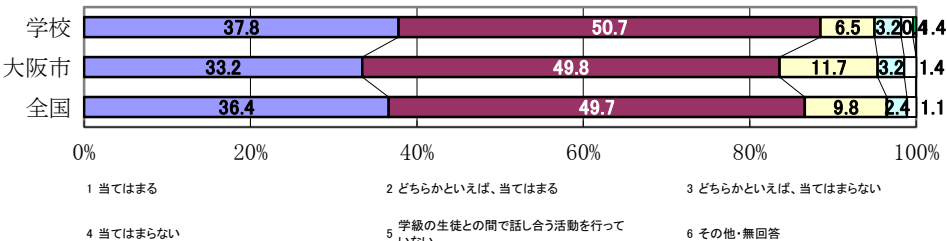
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

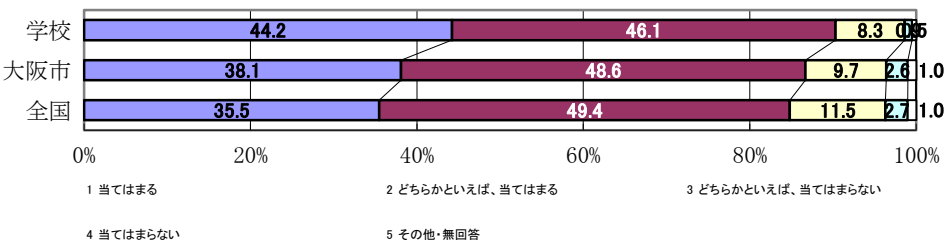
33

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



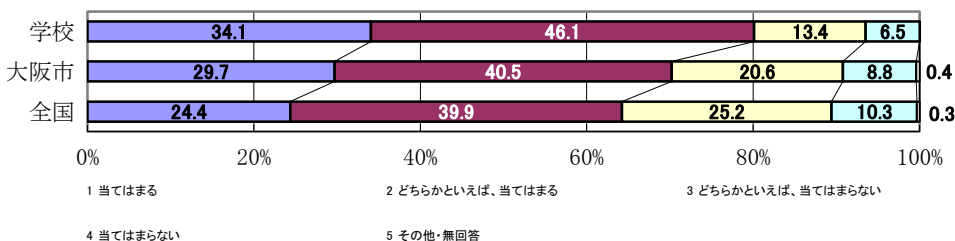
36

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



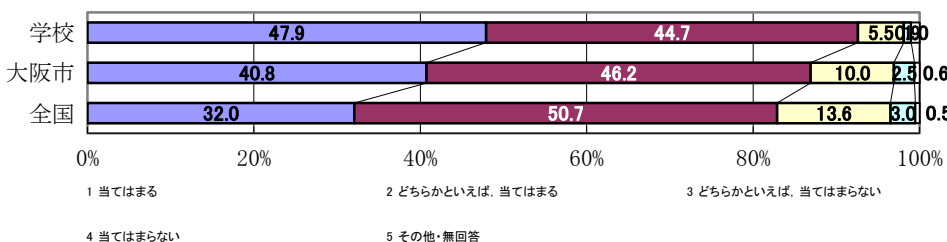
42

国語の勉強は好きですか



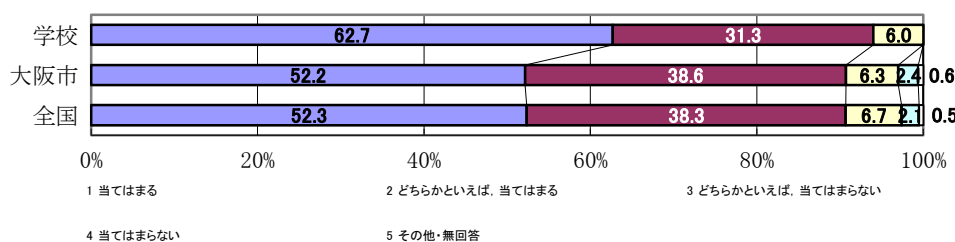
44

国語の授業の内容はよくわかりますか



45

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

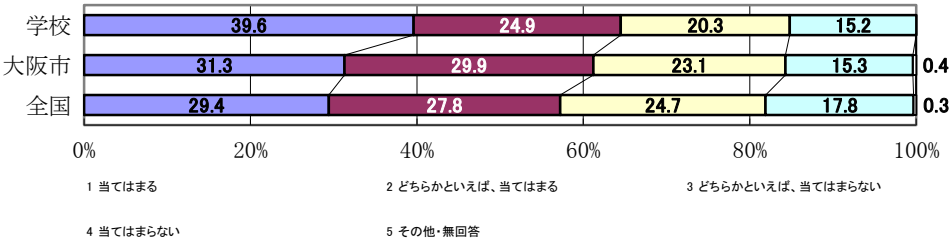
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

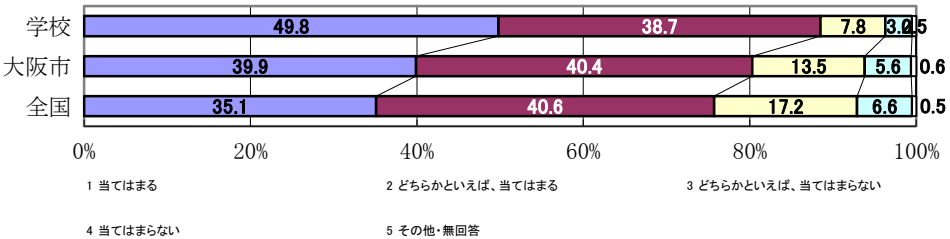
50

数学の勉強は好きですか



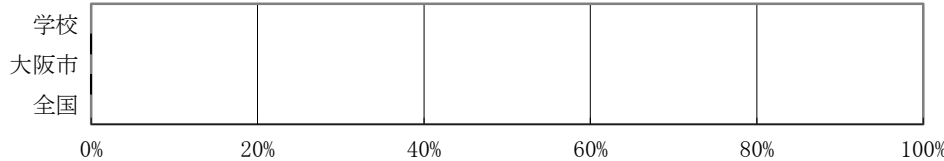
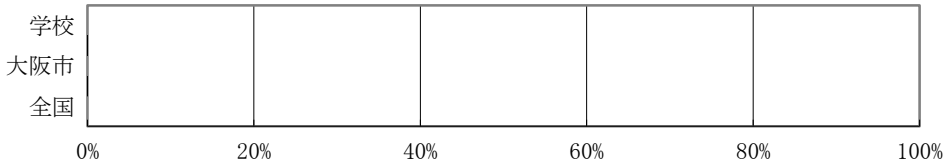
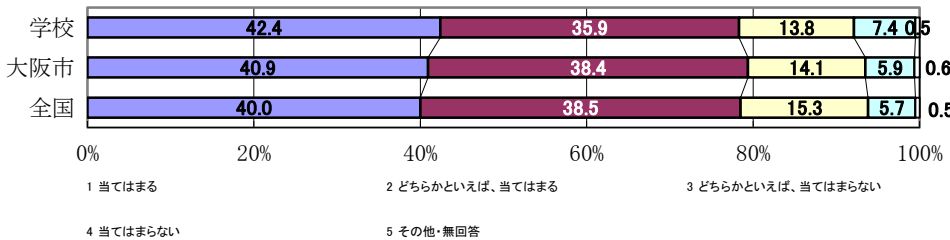
52

数学の授業の内容はよく分かりますか



53

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

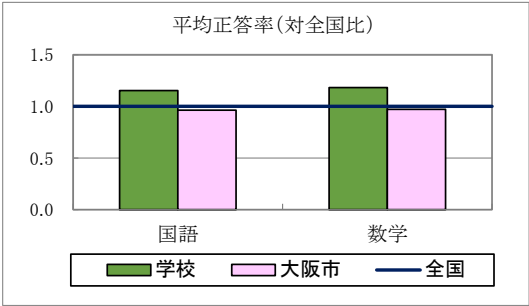


令和6年度 東中学校のあゆみ  
 ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

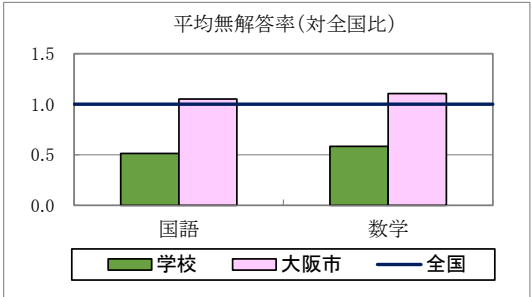
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	67	62
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5



	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	2.0	6.6
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3

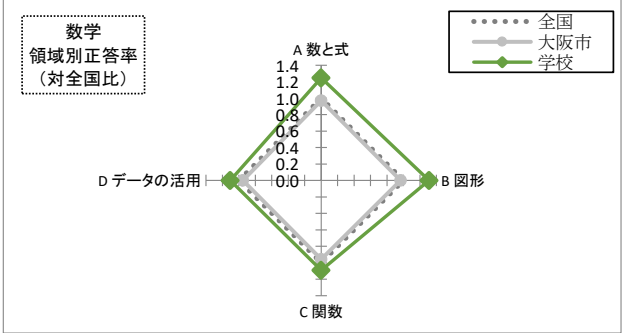
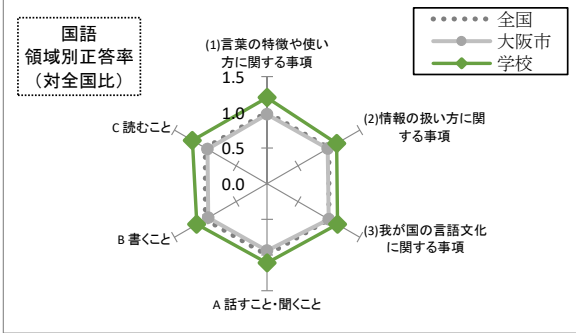
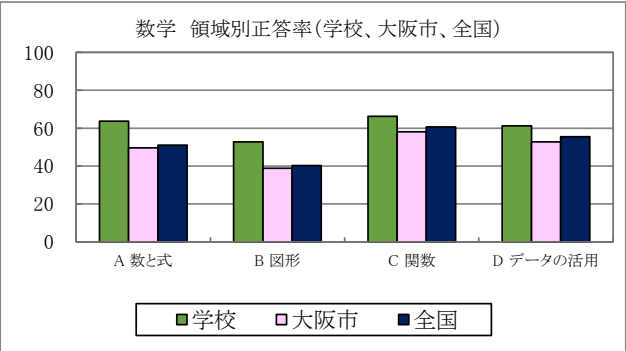
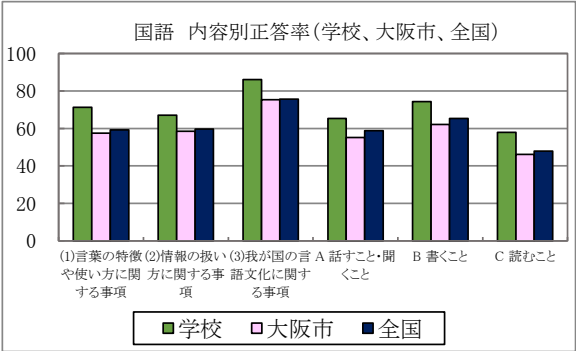


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	71.3	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	67.1	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	86.1	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	65.3	55.2	58.8
B 書くこと	2	74.3	62.2	65.3
C 読むこと	4	57.9	46.2	47.9

【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	63.7	49.6	51.1
B 図形	3	52.8	38.9	40.3
C 関数	4	66.2	58.1	60.7
D データの活用	4	61.3	52.8	55.5



令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

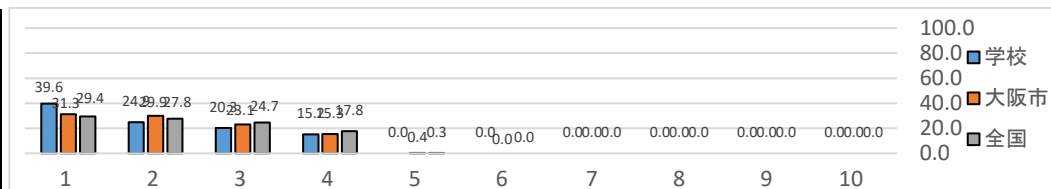
生徒質問より（26）

質問番号

質問事項

50

数学の勉強は好きですか



1 当てはまる

2 どちらかといえば、当てはまる

3 どちらかといえば、当てはまらない

4 当てはまらない

5 その他・無回答

令和6年度 東中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

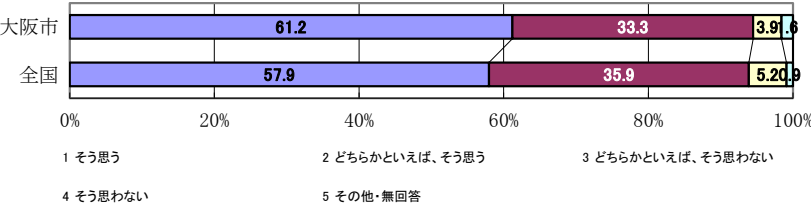
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

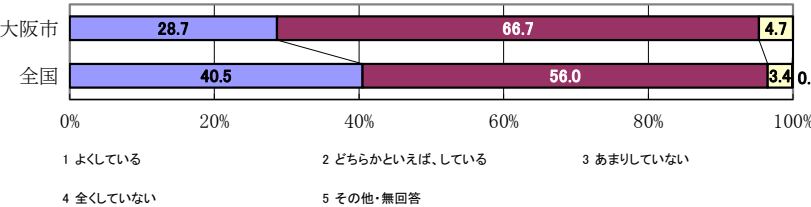
学校 「そう思う」を選択



13

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

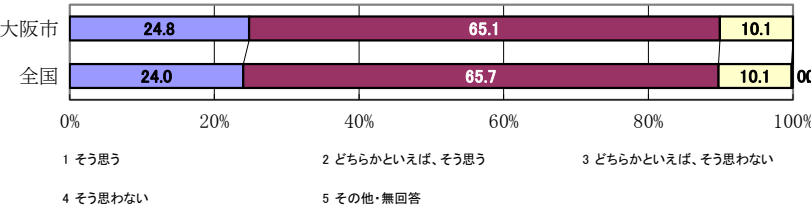
学校 「よくしている」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

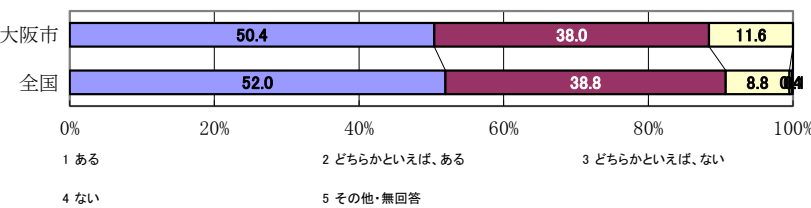
学校 「そう思う」を選択



58

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択



60

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

